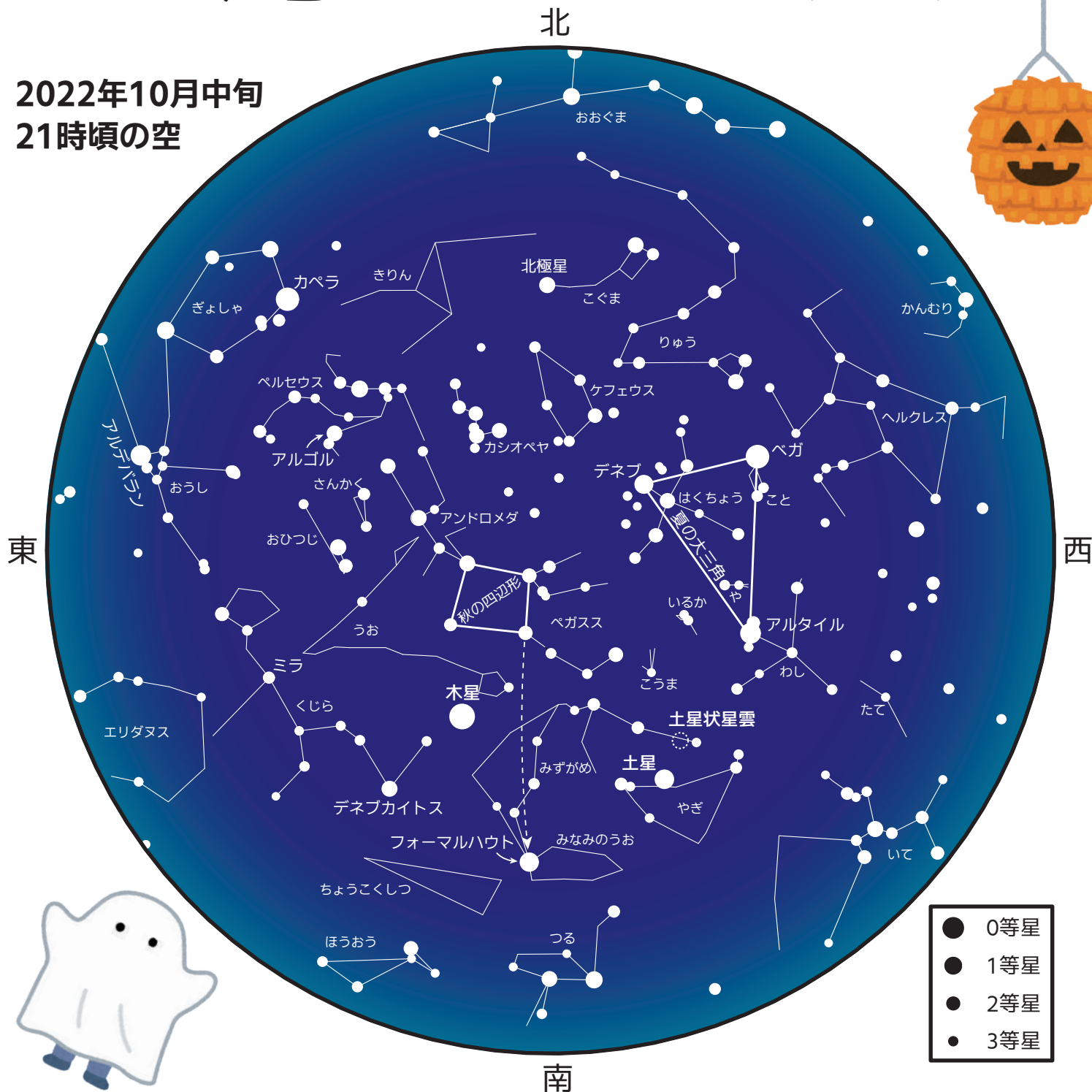


# 阿南市科学センター 10月の星空案内

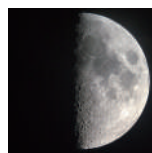
2022年10月中旬  
21時頃の空



10月というと衣替えのシーズンですね。夜空でも夏と秋の星の変わり目となっています。西の空のやや高い所には夏の大三角をはじめとする夏の星が見えていますが、東から南の空にかけては秋の星が見えています。頭の真上近くにあるやや明るい星を結ぶと、少しゆがんだ四角形が特徴の秋の四辺形を見つけることができます。この星並びはペガサス座の胴体の部分にあたります。さらに秋の四辺形の西寄りの2つの星を結んだ線を南に伸ばすとぼつんと輝く明るい星にたどり着きます。この星はフォーマルハウトで、みなみのうお座にある星です。さて、秋の星という他季節に比べて明るい星が少なく、夏の空に比べ落ち着いた印象を受けます。秋の夜空唯一の一等星は南の空に見えるフォーマルハウトのみですが、今年の秋はやぎ座のあたりに土星、さらにうお座のあたりに木星と明るい惑星が2つも見えています。例年とは違うにぎやかな秋の夜空を楽しんでみてはいかがでしょうか。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催 / 19時～, 20時～, 21時～】  
阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

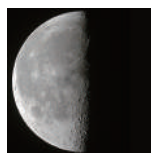
## ■ 10月の月の満ち欠けと惑星について



上弦  
3日



満月  
10日



下弦  
18日



新月  
25日

### 10月の天体観望会で月が見える日時は？



10/1(土) 19時の回序盤に可能



10/8(土) 全ての回で観察可能  
(8日は十三夜です！)

水星：上旬頃、日の出前、東のごく低空に見える。【約-0.5等】

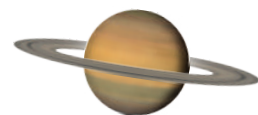
金星：太陽と見かけの位置が近く、観察が難しい(21日に外合)

火星：夜遅くに東の空から昇り、夜明け前まで見える。【約-0.9等】

木星：一晩中見ることが出来る。【約-2.9等】

土星：夜の初めごろから見られ、未明に西の空へ沈む。【約0.6等】

※惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星のみ上旬の明るさ。



今月は観望会で木星・土星を見るチャンス!!



## ■ 見ごろの天体

### ★木星

10月はほぼ一晩中木星を見ることができ、観望の好機を迎えています。科学センターにある113cm望遠鏡で木星を見てみると、丸い姿の中に2本の薄茶色のラインが入っているのがわかります。さらにその縞模様の中に目玉のような模様が見えることもあります。これは**大赤斑**といい木星の大気にある巨大な台風のようなものです。一見小さく見えますが、その大きさはなんと地球1個以上にも及びます。木星は地球よりも自転が早く、約10時間で1回転するため、タイミングが合えば大赤斑も見ることができます。さらに、25cm望遠鏡では木星の衛星を見ることができます。望遠鏡で見やすいものは**イオ・エウロパ・カリスト・ガニメデ**の4つで、日によって各衛星の位置が変わっている様子もわかります。113cmと25cmそれぞれの望遠鏡での木星観察を楽しんでみてはいかがでしょうか。



写真1. 25cm望遠鏡にて撮影した木星  
矢印の先が大赤斑 (A.Suzuki)

### ★土星状星雲 (みずがめ座)

みずがめ座には土星状星雲として知られる星雲があります。「土星状」という名前は、この星雲の見た目が惑星の「土星」を横から見た姿に似ていることに由来し、惑星の土星と科学的な関係はありません。ちなみに春の星座の中には同じような理由で**木星状星雲**という名前の星雲も存在しています。

さて、土星状星雲は星雲の種類の中でも**惑星状星雲**に分類されます。惑星状星雲は、太陽程度の質量をもつ星の末期の姿であり、星が亡くなりつつある状態となっています。科学センターにある113cmの望遠鏡で見ると、米粒くらいのグレーがかった楕円形の姿を見ることができます。一方写真では中心に白色矮星に進化しつつある星、さらに星の外側の部分が複雑な構造を描きながら広がる様子までわかります。



写真2. 113cm望遠鏡にて撮影した土星状星雲 (A.Suzuki)